



ていね 四季の森通信



2011年 6月4日(土) 手稲さと川探検隊

今日見ることができる(かも?)植物たちの紹介



名まえ：ニリンソウ (キンポウゲ科)

別名：フクベラ

アイヌ語名：プクサキナ (北海道・樺太)

アイヌでは茎や葉を汁物の具にしたそうです。干して保存したり(北海道・樺太)煎じたものを傷薬にした地方もあります(道央)

最近、さと川代表は葉を茹でてゴマドレッシングで食べてみたそうです。アズキナに似て、あっさりしていたそうです。

※トリカブトと葉の形がそっくりなので注意が必要です!

撮影日：5/28 場所：カッコウの森

名まえ：シラネアオイ (シラネアオイ科)

別名：ヤマフヨウ・ハルフヨウ

ピンク紫、白色の花びらが実に可憐な花なのでアイヌ語名があってもいいと思うのですが、文献ではさがせませんでした。基本的に食用や薬用など役に立つ用途がない植物には名前をつけることが少ないようです。

ハイランド斜面の群生は圧巻ですが絶滅危惧種に指定されています。盗掘と鹿が食べちゃうのも減っている原因だそうです。写真は手稲ハイランドで撮影しました。カッコウの森の三樽別川斜面にもちらほら咲いていました。

北海道から絶滅危急種に指定されています。

撮影日：昨年6/12 場所：手稲ハイランドスキー場斜面



名まえ：ヒトリシズカ (センリョウ科)

別名：ヨシノシズカ

アイヌ語名：イネハム

「静御膳」に例えて名付けられ、たしかにしとやかな美しさを感じます。ちなみに「フタリシズカ」もあります。ドラえもん世代はしずかちゃんを思い出すでしょう。そしてバブル世代は工藤静香?

アイヌでは干してお茶にしました。独特の匂いは病魔を近づけない除魔力を持つと信じられていました。

影日：昨年5月頃 場所：カッコウの森



ほぼ日菜摘子選



心や脳は頭だけじゃなくて、むしろ身体あるいは環境全体に分散しているんです。皮膚ってけっこう、僕たちにわからない、いろんなことを知っているみたいです。

※池谷祐二さんが『脳の暗黒大陸。』の中で

引用・参考文献：アイヌ民族博物館「アイヌと植物」
福岡イト子 「アイヌ植物誌」1995年発行
北海道の植物(野の花上)北海道新聞社

文責：後藤菜摘子